

2019年度 需要実績見込

(一社)日本塗料工業会 事務局作成

2019年度は、主要メーカーへの需要動向アンケートの結果および2019年12月までの経産省統計値から、塗料需要の実績見込を前年度比98.2%（1,302千トン）と見込む。

前年度実績値（2018年）はVOC排出実態調査から得られた推計値1,325千トンを使用。

需要産業区分	予測数量 (千トン)	前年度比	前年度比算出根拠（メーカーコメント参照）	
建 物	343	98.6%	上期は増税前駆込みや五輪需要等により堅調に推移したものの、下期は増税により消費マインドが冷え込み、新築着工件数減や自然災害等により失速し、昨年度を下回る見込み。	
建築資材	66	97.0%	台風災害の復興需要はあったが住宅、非住宅ともに新築着工件数は減少し、建材向けは概ね前年を下回った。商業施設等非住宅や集合住宅においては好調なところも見受けられた。	
構造物	73	98.9%	橋梁等の塗替工事は旧塗膜剥離工程の環境対応が潜在的な需要下押し要因となっているが、堅調な案件も見受けられた。新設案件は減少傾向にあり、全体としてマイナス推移となった。	
船 舶	109	101.1%	新造船向けが全体需要を押し上げた。修繕船は2020年1月からの船用燃料油の硫黄分濃度規制（SOx規制）に備えた入渠が予想よりも少なかったが、全体としてはプラス推移。	
道路車両	新車	234	98.4%	消費増税後の新車販売落ち込みや台風被害により需要減となり前年度比98.4%を見込む。内装、部品用塗料は米中貿易摩擦の影響により国内・輸出向け共に低調。
	補修	33	96.0%	若年層の車離れや衝突防止機能拡充が加速し市場縮小に歯止めが掛からない。暖冬影響も少なからず影響したと見る。大型架装分野は底堅く推移しているが全体では減少傾向が続く。
電気機械	32	95.0%	消費増税や設備投資逡減などの影響によりデジタル機器、白物家電、配電盤等の電気機械需要が落ち込む。世界経済減速により輸出需要も減少した。	
機 械	52	97.1%	昨年度好調だったこの分野は中国・アジア経済減速で輸出需要が低迷。国内は建設機械が堅調だったが工作機械は設備投資に手控えがあり、全体として前年度比マイナスの見込み。	
金属製品	98	98.4%	鋼製家具は都内オフィス需要等により粉体塗装など概ね好調。PCM鋼板は一部好調も住宅向けで昨年を下回るところもあった。需要先によって凹凸があるが全体としてマイナス推移。	
木工製品	14	95.8%	消費増税前の駆込みが見られたが、増税後の消費マインド冷え込みが続き、さらに非塗装品の増加や海外廉価製品の増加等により前年度比マイナスの見込み。	
家庭用	26	97.4%	上期は好天に恵まれ増税前駆込みで順調に推移。下期は増税後の反動減や台風により伸び悩んだ。暖冬はプラスに作用するも、年間を通してマイナス推移となった。	
輸 出	61	91.9%	需要先によって輸出が好調なところもあったが、全体としては米中貿易摩擦による中国・アジア経済の減速により大きくマイナスとなる見込み。	
路面標示	78	102.6%	昨年10月の台風災害の影響で工事遅延はあったものの、路面用塗料は五輪需要、遮熱対策、滑り止め工事などで需要増となり概ね好調に推移し、前年度を上回った。	
その他	83	97.5%	塗料の需要先によってプラス推移のところもあったが、全体としては前年度を下回った。	
合 計	1,302	98.2%	上期はプラス推移だったが、下期は五輪需要のピークアウト、米中貿易摩擦を発端とする世界経済減速、消費増税および台風災害等が市況を下押しした。前年度比1.8%減の見込み。 3月23日追記：本調査は2月上旬に実施したが、3月には新型コロナウイルスの影響が出始めているため2019年度は今回の予測値を少し下回る見込み。	

2018年度出荷数量推計値1,325千トンは「2019年塗料製造業実態調査」表5-4-1の塗料出荷数量と、希釈シンナー量（「2018年度塗料からのVOC排出実態推計まとめ」のシンナー希釈率により算出）との和により求めた。